

第1学年通信『はじまり』

学校を安心できる学びの場とするために

1月11日(火)に3学期始業式が行われました。1学年代表として、4組の代議員が3学期の抱負を述べてくれました。抱負の中で、1学年全員でやり遂げたいと感じたことを再度確認します。

- 「はつらつメリハリ学習」の達成に向けて…現状として、落ち着きがなく、授業中に騒がしくなっている。ゆったりと、静かで、整然とした学習環境を日頃の授業でつくっていく。
- 「自分から晴れやか挨拶」の達成に向けて…入学した時に比べ、相手に挨拶をされてから挨拶をしてしまうことが増えた。3学期は、特に、自分からにこだわった挨拶を実践し、周りの人を安心させる空間をつくっていく。
- 4月には新入生が入り、私たち1年生が東中生として先輩になる。3年生の先輩方が安心して卒業を迎えられるよう、そして、新3年生の先輩方を支え、新入生にとって憧れの先輩になれるようみんなで成長していく。

3学期がはじまりましたが、1学年の各教室が以前に比べて格段と整理・整頓されています。各学級の週直係や環境整備係、そして、一人ひとりが少しずつ意識や行動を変えてくれたからだと思います。1学年にはこのように成長ができる部分がまだまだたくさんあります。立ち止まることなく、成長し続けましょう。



また、3学期の抱負の中にはこのような言葉もありました。

「理解と協力」では、互いが違う存在であることを知った上で、相手にどんな言葉をかけるとよいかを常に考えていきたいです。そして、仲のよい間柄ではない相手でも優しく受け入れ、助け合える関係をめざします。」

1月下旬には、日々最多の感染者数を記録するなど感染症が拡大し、本校でも臨時休業措置やオンライン授業の実施といった対応がありました。こんな社会情勢である今こそ、これまで学んできたことを発揮する時です。学んできたことをもう一度振り返りましょう。

私たちは、目に見えない恐怖や不安が偏見や差別を生むことを知っています。偏見や差別は人の心が生み出す社会的障がいだと知っています。社会的障がいは相手に対して居場所のある接し方(言葉や行動)を実践することでなくせるものだと知っています。

皆さんの中には、様々な事情や理由で、学校に来ること、仲間に出会うことが不安な人が必ずいます。皆さんができること、皆さんにしかできないことは何ですか？仲間が安心して戻ってこられるようにするためにはどんな言葉をつかい、どんな行動をとればよいですか？2月はそんなことをみんなで考えながら、みんなで過ごしていきたいです。

10月29日(金) 社会的障がいを払拭しよう
東京パラリンピック車椅子バドミントン金メダリストである梶原大暉選手と福岡女学院中学・高等学校校長重枝一郎先生から学びました。

梶原大暉選手
福岡女学院中学・高等学校 校長 重枝 一郎 先生

障がいには2つの壁がある

テクノロジーで克服できる 機能的障がい

人の心が生み出す 社会的障がい

人の心で壊せる壁

中学・高校時代の友人とはお互いに成長し合える関係だった。

1人ひとり見えている世界が違う。人が見えている世界を知ることが大切。

1年生のみんな仲よくしよう!

学年の仲間が授業を通して感じたこと
・障がいを持っていても1人の人であることは変わらない。周りの人の心が生み出す社会障がいが差別や偏見を生み出すと思った。
・どんな人にも平等に接し、お互いに支え合うことができるようにしたい。
・社会的障がいは、障がいのあるなし関係なく、なくさなければならないと思った。そのために日ごろから友達同士で居場所のある接し方をしたかった。

10月29日(金) 社会的障がいを払拭しよう (学習記録)